

## 巻頭の辞

駒沢大学商経学部長 森 莊 三 郎

この駒沢大学商経学部研究紀要第二十一号は、同大学創立八十周年記念祝賀の式典をかざる目的で、同学部教員一同の研究業績をまとめて印刷したものである。百花齊放とは正にこれを形容する言葉であろう。

そもそも、わが駒沢大学は、皇紀二十三世紀のなかば（西暦十六世紀の末）にひらかれた梅檀林がその源であって、仏典および和漢書の研究は日とともにすすみ、法燈はいよいよその輝やきをくわえ、連綿として明治時代におよんだのであった。

明治新政のもとに、曹洞宗専門学校が明治八年に創立せられ、七年後（西暦一八八二年）に曹洞宗大学林と改称された。この時からかぞえて本年は大学創立八十周年にあたるので、十月十五日を期してその祝賀の式典をあげることにしたのである。

この学園のその後の発展をみると、明治三十七年には専門学校令による専門学校の地位にすすみ、翌年その名を曹洞宗大学とあらため、大正十四年には大学令による大学の地位にすすんで、その名を駒沢大学とあらためたが、学部は文学部だけであった。

しかるに、昭和二十四年にいたり、新制大学の旋風のもとに、仏教、文、商経の三学部が設けられ、ここには

二

じめて商経学部が誕生し、さらに昭和二十七年から商経の第二部が増設されたのである。

かくのごとく、宗教家の養成機関から、一步をすすめて教員養成の一面をくわえることになった駒沢大学が、さらに新生面をひらいて経済界に活躍する人材をも養成する機関となったものである。時勢の変化につれ、時勢の要求にそうて、新らしい活動の分野にのりだしたものである以上、わが商経学部は、教職員も学生も一体となって、人々の期待にそむかないように努めなければならぬ。

われわれ商経学部の同僚は、その研究の結果を駒沢大学研究紀要に発表するだけにとどまらず、学部創設の十周年記念にあたって駒沢大学商経学会を創設し、「紀要」の姉妹誌として「研究論集」を毎年一回発行することにしている。

この学部は生れて未だ十何年にしかならない少年である。けれども、今から十年後には成年となり、二十年後には立派な成人になっていることを予期する。その時は、すなわち本学の創立九十周年、百周年が祝賀されるときである。その輝やかしい日を前途に望みつつ、このささやかなる記念誌を駒沢大学にささげる。